

老朽化した『プレハブ校舎』を 『新校舎』建設により解消する方針を決定

～建設から10年以上が経過したプレハブ校舎への対応～
南が丘小学校・西が丘小学校



平成26年7月16日

プレハブ校舎の設置状況

南が丘小学校



建設年 ▶ 平成12～17年度
棟 数 ▶ 5棟
教室数 ▶ 10教室
その他 ▶ トイレ及び手洗い設置

西が丘小学校



建設年 ▶ 平成5年度
棟 数 ▶ 1棟
教室数 ▶ 2教室

南が丘小学校プレハブ校舎建設の経緯と教室の使用状況

平成4年4月

14学級／児童数441人で開校（全教室数18室）

14学級
児童数441人

普通教室(14教室)

平成7年4月

18学級／児童数547人となり、全18教室を使用

18学級
児童数547人

普通教室(18教室)

平成13年3月

団地開発や集合住宅の建設等により、児童数が急増したため、リースによりプレハブ校舎を1棟建設

22学級
児童数732人

プレハブ校舎
1棟(2教室)

特別教室転用
(2教室)

平成14年3月

少人数学級(平成15年度)と併せ、児童数の増により、プレハブ校舎をリースにより1棟増築

24学級
児童数786人

プレハブ校舎
2棟(4教室)

特別教室転用
(2教室)

平成15年6月

児童数の増により、プレハブ校舎をリースにより1棟増築

26学級
児童数810人

プレハブ校舎
3棟(6教室)

特別教室転用
(2教室)

平成17年3月

リース契約より安価である既設プレハブ校舎(3棟)を買い取り、さらにプレハブ校舎を1棟増築

29学級
児童数908人

プレハブ校舎
4棟(8教室)

特別教室転用
(3教室)

平成18年3月

児童の増加により教室不足が続き、さらにプレハブ校舎1棟を増築

30学級
児童数911人

プレハブ校舎
5棟(10教室)

特別教室転用
(2教室)

平成26年5月1日現在

29学級
児童数840人

プレハブ校舎
5棟(10教室)

特別教室転用
(1教室)

南が丘小学校プレハブ校舎の現状

- ◆ 屋根や外壁の腐食による耐久性の低下
- ◆ 内装の老朽化(床の損傷や沈み込み)
- ◆ トイレや水廻りの老朽化及び悪臭の発生
- ◆ 設備面の老朽化(空調設備等)

建設費用とリース額との比較
で十分に役割を果たした

鉄製柱の
腐食



床の
沈み込み



悪臭



排水の
つまり

不具合



❗ 最も古いプレハブ校舎で、建設から12年以上が経過し、
老朽化が進んでいることから、抜本的な対応策が必要

西が丘小学校プレハブ校舎建設の経緯と教室の使用状況

昭和50年7月	10学級/児童数287人で開校（全教室数24室）	10学級 児童数287人	普通教室(10教室)
昭和55年4月	開校時に比べ児童数が倍増	14学級 児童数530人	普通教室(14教室)
平成3年4月	団地造成により、児童数が急増	22学級 児童数712人	普通教室(22教室)
平成5年4月	児童数が増加し続け、全24教室を使用	24学級 児童数833人	普通教室(24教室)
平成6年3月	さらに児童数が増加したため、プレハブ校舎1棟を建設	27学級 児童数926人	普通教室(24教室) +
平成8年4月	さらに児童数が増加	28学級 児童数945人	プレハブ校舎1棟(2教室) 特別教室転用(1教室)
平成21年4月	特別支援学級の増加により学級数が増加	29学級 児童数865人	プレハブ校舎1棟(2教室) 特別教室転用(2教室)
平成26年5月1日現在		29学級 児童数882人	プレハブ校舎1棟(2教室) 特別教室転用(3教室)

西が丘小学校プレハブ校舎の現状

- ◆ 屋根や外壁の腐食による耐久性の低下
- ◆ 内装の老朽化(床の損傷や沈み込み)
- ◆ 設備面の老朽化(空調設備等)

建設費用とリース額との比較
で十分に役割を果たした



❗ 建設から20年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、
抜本的な対応策が必要

最近の児童生徒数増加への対応

児童生徒数の増加に伴う教室の不足

一時的な増加でなければ校舎増築により
児童生徒の学習環境を確保！！

最近の対応

久居東中学校(平成25年度校舎増築)

鉄筋コンクリート造4階建(普通教室4教室)

戸木小学校

平成27年度校舎増築予定

久居東中学校の校舎増築



◀ 増築前



増築後 ▶



プレハブ校舎解消へ

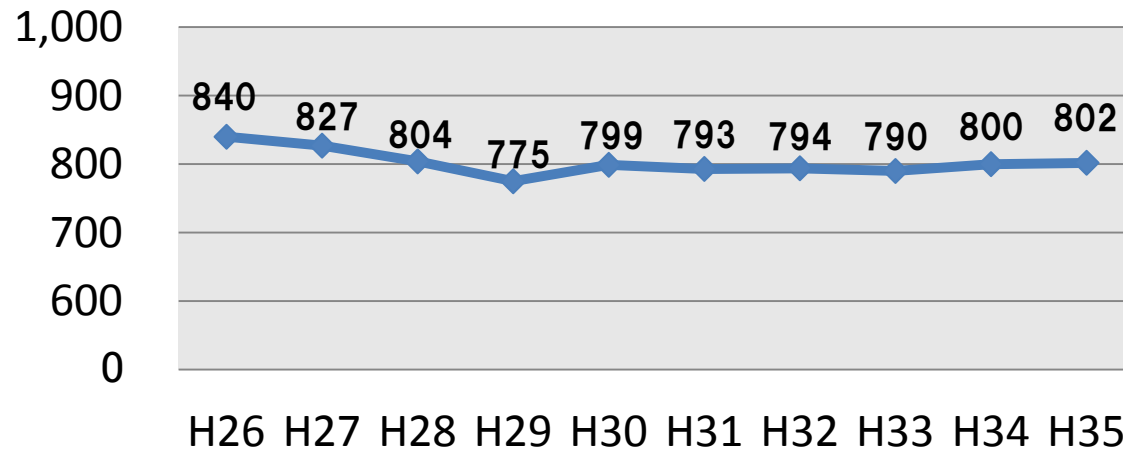
- ▶ 急激な児童数の増加に対応するため、早期に建設が可能なプレハブ校舎により、一時的に教室数の確保を図ってきた
- ▶ 10年を超えてプレハブ校舎を使用し続けてきた
- ▶ その間、児童数はほぼ横ばいであった

これからの10年についても団地開発が続く地域であり、児童数もほぼ横ばいとなる

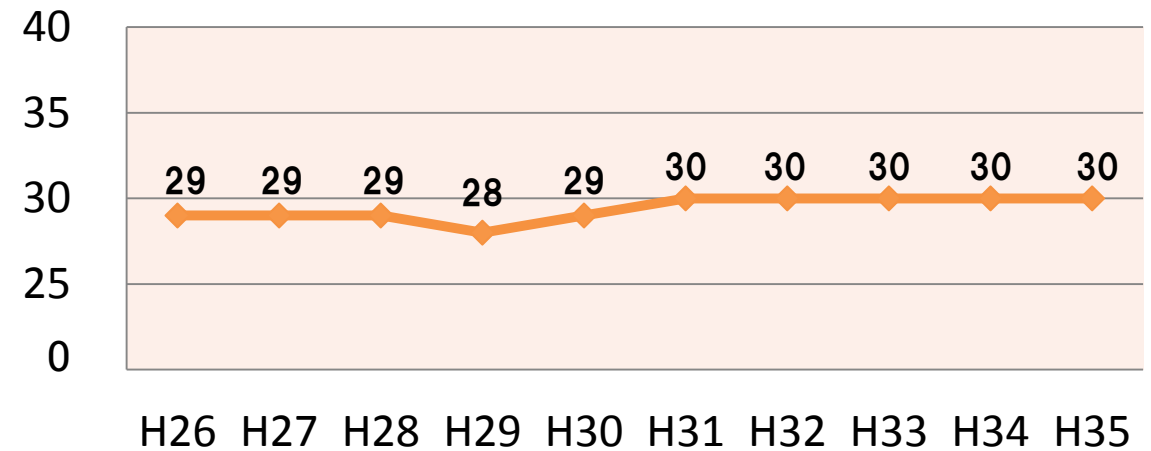
新校舎を建設

今後10年間の児童・学級数の推計

児童数（人）

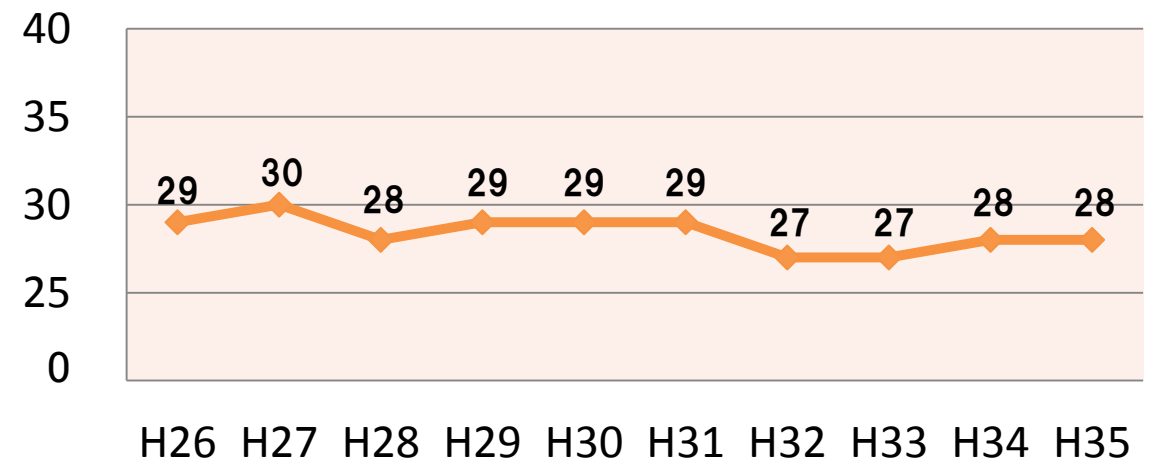
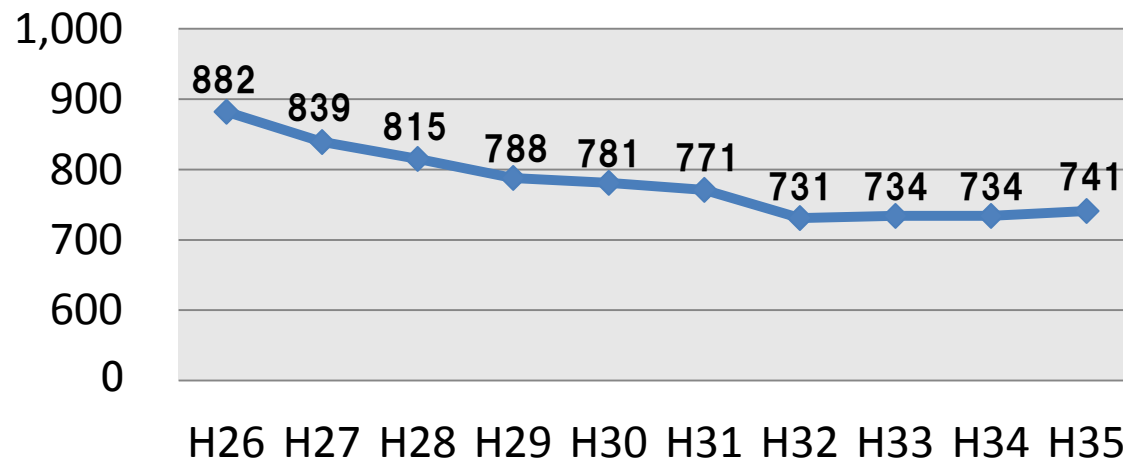


学級数（学級）



南が丘小学校

西が丘小学校



校区内の出生児数や近年の児童数の状況から、
今後10年は児童数、学級数ともほぼ横ばいとなる

南が丘小学校新校舎建設概要(予定)

平成26年度

校舎増築に係る実施設計業務

新校舎教室数

普通教室 10教室

省エネへの取り組み

LED照明の整備

バリアフリーへの対応

エレベーターの設置

総事業費

約3.5億円
(学校施設環境改善交付金、合併特例債充当)

平成27年度に校舎増築工事を予定

西が丘小学校プレハブ校舎解消方針を決定

新校舎教室数

普通教室 2教室
転用解消 2教室

**省エネへの
取り組み**

LED照明の整備

総事業費

約1億円
（学校施設環境改善交付金、合併特例債充当）

平成27年度に校舎増築に係る実施設計業務を予定